

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 7月 24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100686		
法人名	医療法人好縁会		
事業所名	グループホームふれあい段原山崎		
所在地	広島市南区段原山崎2-3-8 (電話) 082-282-1077		
自己評価作成日	令和4年6月7日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100686-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年6月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様には、生活リハビリを通じ個別性のある日々を送って頂いている。感染対策としては、決断スピードと行動力をもって行い、利用者様、職員、各ご家族と協力のもと徹底。その他、コロナ禍であってもイベントごとは多く設けることで結果、団結力の向上がみられている。自己投資への意欲がある職員も多く、今後も質の高いケアの提供が期待できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は利用時に家族の協力のもと、本人の基本情報、フェイスシートを作成している。利用後の役割を創出するため自宅での過ごし方、興味のあるものを把握することで個別的なケアに繋がっている。食事を楽しむことに力を入れており、日頃の食事とは違う鍋やサンドウィッチを共同で作り、食卓を共にすることで楽しい時間を一緒に過ごせる工夫を行っている。職員の意識、スキル向上へも力を入れている。法人全体での「資格取得推進事業」や法人内研修も豊富で様々なサポート体制があり、職員の自己実現や職員の経験値に合わせた学ぶ機会の創出による質の高いケアに繋がっている。法人母体が医療法人という強みをケアに活かしており、訪問看護との連携や時間に制約のない法人医師との連絡体制による医療サポートの充実が図られている。

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	基本理念・行動指針及び好縁会生活作り10カ条を主軸に、全職員共有し、実践につないでいる。朝礼時は全員で復唱し、一日の予定を立て、サービスを提供している。	事業所に法人の経営理念、「生活づくり10か条」を掲示しており、始業前に唱和することで目指すべきケアを念頭に意識統一を行っている。また職員個々に個人目標を定め、自身のあるべき姿と目指すべき姿を明確化することで自己実現に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し寄り合い、回覧版を中心に地域の状況を確認。地域の行事などは、コロナの影響で滞っている。散歩時など挨拶やゴミ拾いへの気配りを実行している。	コロナ禍により地域行事などの中止が続いている。町内会加入による回覧板などで地域の実情などの情報収集を行っており、アフターコロナに向け思案を続けている。現在、通学路での挨拶、見守り活動による世代間交流を企画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	玄関前などでお茶会やレクリエーションを実施。認知症があっても、地域で楽しい生活ができていないことをオープンにしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は二ヶ月に一度行い、事業所の状況やサービスの実際を伝えている。又、利用者様の日常の様子の写真を見ていただき、参加者との話し合いの機会を設けている。ご意見やご要望は早急に対処・改善に努め、サービスの向上に心がけている。	運営推進会議を新型コロナウイルス感染状況により書面と会議を柔軟に開催している。書面となる際も出向き、手渡しすることで顔を合わせ、関係継続の機会を作っている。実際にコロナワクチンについての問い合わせがあり、医療法人の強みを活かし、情報提供を行った実績がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には地域包括支援センターの方に参加して頂き、情報交換を行っている。主にメールを活用し連絡体制を整えている。各種研修会にも参加。	法人の方針として、日頃より連絡手段としてメールを活用し迅速な情報交換を行っている。市・区主催のリモート研修にも積極的に参加している。管理者だけでなく、一般職員の参加も行い、介護保険に対する知識の深化に繋げ、介護計画作成に寄与している。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営推進会議時に、身体拘束禁止委員会を開催している。現時点で身体拘束の事実はないが、今後も行われないよう意識の徹底と知識の周知を行っている。	運営推進会議を活用することで区担当者や地域包括支援センター職員の意見を加味することにより多岐に渡る「身体拘束をしないケア」に繋げている。また、法人内研修を活用し新人職員の知識習得や職員のスキルアップにも繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止・虐待防止を含めての事故防止委員会を設置し、定期的に会議を行い、内容は回覧し全職員で周知徹底し、防止に努めている。新卒及び中途採用者へ研修も実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	直近では、成年後見人制度を利用されている入居者様がおられ、随時連絡をとっていた。各職員へも、そういった制度活用の理解を深めるため勉強会を実施する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重要事項説明書に基づいて、入居者様、家族に説明している。変更が生じた場合も、その都度説明している。また、不安や疑問点について伺い、ご理解が頂けるよう説明をしている。迅速に誠意を持って対応できるよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様に担当制を設け、要望や意見を表せるよう、個別に耳を傾けている。担当以外の職員とコミュニケーションをとり、些細な意見や要望を見落とさないようにしている。ご家族の面会時には積極的に声かけを行い、得た情報は記録に残す等し職員間での共有を図っている。	利用者個々に担当職員を設けている。家族との連絡を主に取ることで継続的な情報収集・交換を可能としている。職員間の情報共有は連絡ノートを活用し迅速に対応している。面会時はもとより日頃から電話をし、家族との関係継続に寄与している。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度各フロアでミーティングを行い、業務に関する意見や改善点を話し合い、議事録を回覧し、全職員で共有している。また、参加できない職員については、疑問点や意見をあらかじめ提出してもらい、ミーティングで話し合う仕組みにしている。ミーティング以外でも気づいた事があれば、話し合い、対策・改善している。	各フロアはもとよりフロアリーダーともミーティングを毎月行っており、職員ごとの考えや意見の取りまとめを行っている。職員個々と面談を行い、個人目標の達成状況の把握や修正に繋げている。また、資格取得推進事業があり自己実現に向けたサポートも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の能力に合わせた評価シートを活用し、勤務に臨んでいる。定期的に面談をし、就業に対する意識を共有。やりがいにつながるよう、評価についても年二回見直しをしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外や事業所内の研修制度を利用。外部の研修に関しても、研修費補助や勤務内研修が認められ、比較的参加しやすい体制が整っている。資格取得推進事業を立ち上げ、資格取得に意欲がもてるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期的にあいさつ回りと営業活動を行っている。ご紹介いただいた利用者様の居宅ケアマネの方とも、定期的に連絡をとり、良好なつながりができている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の見学案内にて、お困りごとなど時間の許す限り、耳を傾けている。それに基づき、GHでできるサービス提供を丁寧に説明させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学以降は、契約時に再度時間をかけ説明を行う。可能な限り、ご要望とご期待に添えるサービスを提供できるよう、看護師、ケアマネ、介護職員と情報を共有する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居初期段階では、入居日の二日目や一週間後など節目に状況連絡をし、生活の様子を共有する。その後も担当職員と月一回の連絡体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活として、また居場所作りの一環として、役割を担って頂く。ケアプランへも反映し、居場所のある生活場所として環境整備している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の生活の様子をお伝えするため月一のご連絡と、必要時に電話している。他、LINEなども活用。コロナの状況に応じて、面会は制限している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族以外の方も、疎遠とにならないようフェイスブックやインスタグラムなどを活用し、生活状況をアップしている。	現在玄関での面会を実施している。電話の取り次ぎも行うことでこれまでの人とのつながりを尊重し継続できる対応を行っている。携帯電話の持ち込みは可能で家族はもとより友人とも自由に連絡できる環境である。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の席は利用者様同士の相性や話しやすさを考えて配置し、食事以外の時間にも孤立を防ぐため、家具の配置などリビングの環境に配慮している。又、より良い人間関係作りのため、職員がコミュニケーションの間に入り意思疎通の手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されたご利用者のご家族様が施設に来院されたり、電話やお手紙を頂いたりサービスが終了してもこれまでの関係性を保てる環境を作っている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各担当者が中心となって、本人の思いを聞き出せるよう努めている。ご本人が話された内容は記録に残し、全職員が共有できるようにしている。その他、カンファレンスを通じて、ご本人らしい生活となるよう意見交換している。	利用開始時に家族と共にフェイスシートの作成を行っている。その中でその方の人間像や嗜好を把握しその人らしい生活や役割に繋げている。日頃から生活場面を共にする中で表情や感情の変化を把握し、個々にあったものの提供に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報提供を基に、基本情報やアセスメントシートを作成・活用し、ほぼ把握できている。縁者の方々等からも、より詳しくうかがったり、生活場面や本人とのコミュニケーションの中からの把握にも努めている。本人の人生史も重視し、サービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	経過記録、申し送り機能や他情報共有ノートを使用し、統一ケアができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>アセスメントを行い、ご本人やご家族と話し合いの上、課題抽出をし、目標を見据えたケアプランを立てている。毎月モニタリングを行い、見直しをしている。ご家族とは来所に現状や取り組み内容などを伝え、ご意見等を聞きケアの参考にしている。</p>	<p>担当職員を中心に毎月モニタリングを行い、計画作成担当者と共に家族、利用者の意向を反映した介護計画原案を作成している。カンファレンスには主治医、訪問看護職員など多職種がアイデアを出し合い、ひと目でその方と分かる介護計画となるようにしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>経過記録、申し送り機能や他情報共有ノートを使用し、統一ケアができるよう努めている。重要なことは、さらに口頭にて伝達。必要時に応じて訪問看護師などの医療職と連携する。</p>	/	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>新たな課題について、カンファレンスにあげ、協議する。医療職とも連携し、助言アドバイスを頂き、最終的にご家族とも協議するよう努めている。</p>	/	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>過ごしやすい天気、気温の時は、積極的に近隣の公園を散歩。また、不穏など気分がすぐれない時も、気分転換に外の空気を吸いに行く機会を設けている。</p>	/	
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>運営母体のクリニックをご利用者全員が主治医とされているが、ご本人とご家族の希望で、専門分野では他の病院を受診されている方もいる。いずれの場合も本人様とご家族の要望に沿った医療を受けられるよう、連携を図り支援している。</p>	<p>利用開始時に利用者、家族の希望を確認し、主治医の選定を行っている。他医療機関の受診時は家族対応をお願いしている。同法人訪問看護が隣接しており毎日の体調確認、急変時も迅速に対応できる環境である。また、アプリを使用し24時間のサポート体制も構築されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間の緊急連絡体制とあわせ、気軽に相談できるチャット機能を使用し、密に連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して入院生活を送っていただける様、また早期の退院に向けてご本人、ご家族、医療関係者と話し合う機会をつくり連携に努めている。コロナの影響もあり、面会できず連絡のみの対応となる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期指針と称し、ご家族・主治医・関係者が話し合い、方針を共有し、書面にて事前確認させて頂いている。重度化・終末期・体調の著しい変化が生じた場合は、その都度、主治医・看護師・ご家族と話し合いを行い、今後の方針をともに立てている。	「最後までその人らしく」終末期を迎えられるよう利用開始時に多職種、家族を交え、方針を決定している。終末期を迎えるにあたって家族の思いに寄り添い、心のケアも行っている。多岐に渡る終末期へのニーズに対応できるよう事業所内での研修も企画予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応一覧に基づき対応するようにしている。何かあれば緊急連絡網を活用し、24時間医療職、管理者に報連相する連絡体制を整えている。チームで対応できるよう緊急時対応研修を事業所内で実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	グループホーム内での災害時避難訓練は年に2回消防署の方を招き、防災・災害時の対策について、消防署員からの指導も受けている。	年2回夜間想定での防災訓練を行っている。実際に玄関先まで避難することで課題の洗い出しを行っている。ハザードマップ上では水害の範囲内となっており、併設のグループホームふれあい段原3階への避難を想定し協力体制を構築している。備蓄は法人本部で一括管理している。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳の保持を念頭に置いた言葉かけや対応をしている。人生の大先輩として敬うことをケア場面にて徹底実践している。ご利用者に対して指示的な言動にならないよう、職員同士も互いに注意し合っている。	法人内で接遇委員会を立ち上げ、意識向上に取り組んでいる。チェックシートを用い、職員相互のチェック機能により、不適切な声掛けが無いよう日頃から指導している。同性での介護の実施も行っており、利用者の希望に即した、気持ちの配慮にも尽力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様の思いや感情を自由に表出できるような雰囲気作りを行い、コミュニケーションを図っている。その人らしい生活を支えるための知識・技術を学び、人的・物的両面から自己決定ができるよう工夫を重ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限りその方の生活リズムやペースに添えるよう支援している。本人の思いをくみ取り、寄り添いのケアに力を入れている。訴えや要望がある場合は、その都度対応し、なるべくその方のペースが守れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起きた後、食後、トイレ後、入浴後など我々が当たり前に行っていることを当たり前前に提供する。人によって差がないよう、習慣化している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理の下準備や盛り付け、配膳・下膳、食器洗いを入居者様に手伝って頂いている。職員も同じものを一緒に食べ、楽しい食卓の雰囲気作りをしている。また食事の時の座位やテーブルとの距離が適切になるよう細やかに支援している。	利用者には個々に役割を持ち、盛り付け、配膳、片付けなどを行ってもらい、介護計画にも反映している。行事時には様々な食事を企画しておりサンドウィッチや鍋など、職員と食卓を囲む機会もある。また、寿司やピザなどを宅配で頼んだ実績もある。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	安全に美味しい食事が摂れるよう、あらゆる角度から支援している。摂食嚥下認定看護師講習へ参加し、学んだ知識を取り入れ実践する。いかせる知識はしっかり活かす取り組みができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科と連携を図り、口腔衛生に努めている。毎食後、入居者様の状態に合わせて口腔ケアの声かけ・介助を行っている。夜間は義歯をお預かりして義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンや習慣を把握し、基本的におむつを使用しない。排泄パターンに合わせて時間で誘導するなど排泄の失敗がないように努めている。必要がなければ紙パンツもできるだけ使用せず、布パンツでの対応をしている。自立支援と並行し、気持ちのよい排泄を目指している。	各トイレには前傾姿勢保持テーブル、足台が設置してあり、状態に合わせた排泄の自立支援に向けた取り組みを常に行っている。個々の排泄間隔を表で示しサインを見逃さないケアを行うことでオムツ→リハビリパンツ→布パンツへの改善実績もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医療職と連携をはかり、便秘予防、対応、対策を行なっている。食後のトイレ誘導や水分摂取への気配り他、適度な運動を取り入れて対策している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	可能な限り、希望に添った入浴方法・習慣を大切に支援に努めている。安全でリラックスした入浴時間となるよう、時間配分や温度、いろんな入浴剤を使用し楽しんで頂いている。	週3回午後からの入浴を基本対応とし、希望に合わせて柔軟な入浴ケアを提供している。入浴後には化粧水や保湿クリームを用い皮膚トラブルの予防に努めている。浴槽と洗身台を同じ高さにする事で利用者の身体への負担を軽減するよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	入居前の生活スタイルを崩さな いよう、起床時間をご本人様の 要望に合わせて、日中は体調に 合わせて、リクライニングチェア の活用や、居室で休んでいただ けるよう支援している。夜間し っかりと休んでいただくため、 居室の環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	職員は内服薬リストなどを活用 して状況をほぼ把握している。 職員間での連携を密にとり、症 状の変化を見逃さないようにし ている。服薬管理には意識の徹 底を図り、慎重な対応をしてい る。薬の情報は共有申し送り機 能で各自が必ず確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	入居以前にされていた趣味や 得意だったことをご本人やご家 族からお聞きし、入居後も継続 してできるよう支援している。 特技など、お互いが助け合っ てできる関係性を構築している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	日常的な外出支援は厳しい状況 となっている。	コロナ禍のため近隣の商業施設 や外食は自粛対応が続いている。 日常の中で外気を感じられるよ う事業所駐車場を使用したお茶 会や歌会を催している。希望時 には周辺の公園へ散歩に出掛け ている。今後は通学路でのあいさ つ運動やごみ拾い活動を企画し ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	原則、金銭管理は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現在は電話でなく、オンラインでテレビ電話機能などを多く取り入れ提供している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者の作品や、季節の置物、季節の植物などを飾ることで季節感をだしている。リビングなどの室内で、四季の変化を感じて頂けるよう工夫している。 馴染みの空間作りができるよう、ご利用者が使う物や家具の配置はできるだけ変えないようにしている。	共有スペースは一方向の食事席、十分な喚起を施し消毒を1日2回としっかりとした感染対策を行っている。椅子、テーブルを高さ別に用意し利用者の身体に合った高さで使用できるようにしている。毎日の清掃は利用者と共に、役割の創出に寄与している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりのお気に入りの場所があり、気の合う方と楽しく過ごせるよう家具の配置など工夫している。一人になりたいときは少し離れたソファで過ごす等にも配慮している。一人で居室で休む時間、リビングで皆と過ごす時間をご本人の希望に合わせて支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内の家具や持ち物はご本人様の使いなれた馴染みの物をお持ちいただくようお願いし、なるべく以前のお住いに近い形で、安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。ご家族の写真や思い出の品も自由に持ってきて頂き、自由に居室をレイアウトして頂いている。	利用開始時には家族協力のもと職員が自宅へ同行し自室の見学を行っている。レイアウトや必要物品の相談対応することで不安解消と環境変化の軽減に繋げている。使い慣れた物の持ち込みを依頼しておりタンスや賞状、仏壇などの持ち込み実績がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ヒヤリハットを多く挙げることで危険に対する認識をあげる。早めに対応処することで事故防止となるよう対応している。環境整備については、早い対応を心がける。		

V アウトカム項目(1F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念・行動指針及び好縁会生活作り10カ条を主軸に、全職員共有し、実践につないでいる。朝礼時は全員で復唱し、一日の予定を立て、サービスを提供している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し寄り合い、回覧版を中心に地域の状況を確認。地域の行事などは、コロナの影響で滞っている。散歩時など挨拶やゴミ拾いへの気配りを実行している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	玄関前などでお茶会やレクリエーションを実施。認知症があっても、地域で楽しい生活ができていることをオープンにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は二ヶ月に一度行い、事業所の状況やサービスの実績を伝えている。又、利用者様の日常の様子の写真を見ていただき、参加者との話し合いの機会を設けている。ご意見やご要望は早急に対処・改善に努め、サービスの向上に心がけている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には地域包括支援センターの方に参加して頂き、情報交換を行っている。主にメールを活用し連絡体制を整えている。各種研修会にも参加。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営推進会議時に、身体拘束禁止委員会を開催している。現時点で身体拘束の事実はないが、今後も行われないよう意識の徹底と知識の周知を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止・虐待防止を含めての事故防止委員会を設置し、定期的に会議を行い、内容は回覧し全職員で周知徹底し、防止に努めている。新卒及び中途採用者へ研修も実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	直近では、成年後見人制度を利用されている入居者様がおられ、随時連絡をとっていた。各職員へも、そういった制度活用の理解を深めるため勉強会を実施する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重要事項説明書に基づいて、入居者様、家族に説明している。変更が生じた場合も、その都度説明している。また、不安や疑問点について伺い、ご理解が頂けるよう説明をしている。迅速に誠意を持って対応できるよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様に担当制を設け、要望や意見を表せるよう、個別に耳を傾けている。担当以外の職員とコミュニケーションをとり、些細な意見や要望を見落とさないようにしている。ご家族の面会時には積極的に声かけを行い、得た情報は記録に残す等し職員間での共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度各フロアでミーティングを行い、業務に関する意見や改善点を話し合い、議事録を回覧し、全職員で共有している。また、参加できない職員については、疑問点や意見をあらかじめ提出してもらい、ミーティングで話し合う仕組みにしている。ミーティング以外でも気づいた事があれば、話し合い、対策・改善している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の能力に合わせた評価シートを活用し、勤務に臨んでいる。定期的に面談をし、就業に対する意識を共有。やりがいにつながるよう、評価についても年二回見直しをしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外や事業所内の研修制度を利用。外部の研修に関しても、研修費補助や勤務内研修が認められ、比較的参加しやすい体制が整っている。資格取得推進事業を立ち上げ、資格取得に意欲がもてるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期的にあいさつ回りと営業活動を行っている。ご紹介いただいた利用者様の居宅ケアマネの方とも、定期的に連絡をとり、良好なつながりができている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の見学案内にて、お困りごとなど時間の許す限り、耳を傾けている。それに基づき、GHでできるサービス提供を丁寧に説明させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学以降は、契約時に再度時間をかけ説明を行う。可能な限り、ご要望とご期待に添えるサービスを提供できるよう、看護師、ケアマネ、介護職員と情報を共有する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居初期段階では、入居日の二日目や一週間後など節目に状況連絡をし、生活の様子を共有する。その後も担当職員と月一回の連絡体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活として、また居場所作りの一環として、役割を担って頂く。ケアプランへも反映し、居場所のある生活場所として環境整備している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の生活の様子をお伝えするため月一のご連絡と、必要時に電話している。他、LINEなども活用。コロナの状況に応じて、面会は制限している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族以外の方も、疎遠とならないようフェイスブックやインスタグラムなどを活用し、生活状況をアップしている。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の席は利用者様同士の相性や話しやすさを考えて配置し、食事以外の時間にも孤立を防ぐため、家具の配置などリビングの環境に配慮している。又、より良い人間関係作りのため、職員がコミュニケーションの間に入り意思疎通の手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されたご利用者のご家族様が施設に来訪されたり、電話やお手紙を頂いたりサービスが終了してもこれまでの関係性を保てる環境を作っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各担当者が中心となって、本人の思いを聞き出せるよう努めている。ご本人が話された内容は記録に残し、全職員が共有できるようにしている。その他、カンファレンスを通じて、ご本人らしい生活となるよう意見交換している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報提供を基に、基本情報やアセスメントシートを作成・活用し、ほぼ把握できている。縁者の方々等からも、より詳しくうかがったり、生活場面や本人とのコミュニケーションの中からの把握にも努めている。本人の人生史も重視し、サービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	経過記録、申し送り機能や他情報共有ノートを使用し、統一ケアができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントを行い、ご本人やご家族と話し合いの上、課題抽出をし、目標を見据えたケアプランを立てている。毎月モニタリングを行い、見直しをしている。ご家族とは来所に現状や取り組み内容などを伝え、ご意見等を聞きケアの参考にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	経過記録、申し送り機能や他情報共有ノートを使用し、統一ケアができるよう努めている。重要なことは、さらに口頭にて伝達。必要時に応じて訪問看護師などの医療職と連携する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	新たな課題について、カンファレンスにあげ、協議する。医療職とも連携し、助言アドバイスを頂き、最終的にご家族とも協議するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	過ごしやすい天気、気温の時は、積極的に近隣の公園を散歩。また、不穏など気分がすぐれない時も、気分転換に外の空気を吸いに行く機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	運営母体のクリニックをご利用者全員が主治医とされているが、ご本人とご家族の希望で、専門分野では他の病院を受診されている方もいる。いずれの場合も本人様とご家族の要望に沿った医療が受けられるよう、連携を図り支援している。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間の緊急連絡体制とあわせ、気軽に相談できるチャット機能を使用し、密に連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して入院生活を送っていただける様、また早期の退院に向けてご本人、ご家族、医療関係者と話しあう機会をつくり連携に努めている。コロナの影響もあり、面会できず連絡のみの対応となる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期指針と称し、ご家族・主治医・関係者が話し合い、方針を共有し、書面にて事前確認させて頂いている。重度化・終末期・体調の著しい変化が生じた場合は、その都度、主治医・看護師・ご家族と話し合いを行い、今後の方針をともに立てている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応一覧に基づき対応するようにしている。何かあれば緊急連絡網を活用し、24時間医療職、管理者に報連相する連絡体制を整えている。チームで対応できるよう緊急時対応研修を事業所内で実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	グループホーム内での災害時避難訓練は年に2回消防署の方を招き、防災・災害時の対策について、消防署員からの指導も受けている。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳の保持を念頭に置いた言葉かけや対応をしている。人生の大先輩として敬うことをケア場面にて徹底実践している。ご利用者に対して指示的な言動にならないよう、職員同士も互いに注意し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様の思いや感情を自由に表出できるような雰囲気作りを行い、コミュニケーションを図っている。その人らしい生活を支えるための知識・技術を学び、人的・物的両面から自己決定ができるよう工夫を重ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限りその方の生活リズムやペースに添えるよう支援している。本人の思いをくみ取り、寄り添いのケアに力を入れている。訴えや要望がある場合は、その都度対応し、なるべくその方のペースが守れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起きた後、食後、トイレ後、入浴後など我々が当たり前に行っていることを当たり前提供する。人によって差がないよう、習慣化している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理の下準備や盛り付け、配膳・下膳、食器洗いを入居者様に手伝って頂いている。職員も同じものを一緒に食べ、楽しい食卓の雰囲気作りをしている。また食事の時の座位やテーブルとの距離が適切になるよう細やかに支援している。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	安全に美味しい食事が摂れるよう、あらゆる角度から支援している。摂食嚥下認定看護師講習へ参加し、学んだ知識を取り入れ実践する。いかせる知識はしっかり活かす取り組みができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科と連携を図り、口腔衛生に努めている。毎食後、入居者様の状態に合わせて口腔ケアの声かけ・介助を行っている。夜間は義歯をお預かりして義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンや習慣を把握し、基本的におむつを使用しない。排泄パターンに合わせて時間で誘導するなど排泄の失敗がないように努めている。必要がなければ紙パンツもできるだけ使用せず、布パンツでの対応をしている。自立支援と並行し、気持ちのよい排泄を目指している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医療職と連携をはかり、便秘予防、対応、対策を行なっている。食後のトイレ誘導や水分摂取への気配り他、適度な運動を取り入れて対策している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	可能な限り、希望に添った入浴方法・習慣を大切に支援に努めている。安全でリラックスした入浴時間となるよう、時間配分や温度、いろんな入浴剤を使用し楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	入居前の生活スタイルを崩さな いよう、起床時間をご本人様の 要望に合わせて、日中は体調に 合わせて、リクライニングチェ アの活用や、居室で休んでいた だけよう支援している。夜間し っかりと休んでいただくため、 居室の環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	職員は内服薬リストなどを活用 して状況をほぼ把握している。 職員間での連携を密にとり、 症状の変化を見逃さないよう にしている。服薬管理には意 識の徹底を図り、慎重な対応 をしている。薬の情報は共有申 し送り機能で各自が必ず確認 する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。	入居以前にされていた趣味や 得意だったことをご本人やご 家族からお聞きし、入居後も 継続してできるよう支援して いる。特技など、お互いが助 け合っできる関係性を構築し ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援して いる。	日常的な外出支援は厳しい状 況となっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	原則、金銭管理は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現在は電話でなく、オンラインでテレビ電話機能などを多く取り入れ提供している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者の作品や、季節の置物、季節の植物などを飾ることで季節感をだしている。リビングなどの室内で、四季の変化を感じて頂けるよう工夫している。 馴染みの空間作りができるよう、ご利用者が使う物や家具の配置はできるだけ変えないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人一人のお気に入りの場所があり、気の合う方と楽しく過ごせるよう家具の配置など工夫している。一人になりたいときは少し離れたソファで過ごす等にも配慮している。一人で居室で休む時間、リビングで皆と過ごす時間をご本人の希望に合わせて支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内の家具や持ち物をご本人様の使いなれた馴染みの物をお持ちいただくようお願いし、なるべく以前のお住いに近い形で、安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。ご家族の写真や思い出の品も自由に持ってきて頂き、自由に居室をレイアウトして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ヒヤリハットを多く挙げることで危険に対する認識をあげる。早めに対応対応することで事故防止となるよう対応している。環境整備については、早い対応を心がける。		

V アウトカム項目(2F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい段原山崎

作成日 令和4年8月8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		感染予防と並行したサービス提供	Withコロナでの知識技術向上	感染予防しつつ、派遣セミナーや事業所内勉強会の実施	一年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。